

## 開会挨拶

医療安全全国共同行動 議長 高久史麿

皆さん、こんにちは。

ただいま司会の方からご紹介にあずかりました、「医療安全全国共同行動」議長を務めています高久です。本日は、お忙しい中、「医療安全全国フォーラム 2016」にご参集いただきまして、ありがとうございます。

「医療安全全国共同行動—いのちをまもるパートナーズ」は、平成 20 年に医療界を挙げて医療安全の向上を目指すキャンペーン活動として、日本医師会、日本歯科医師会、日本看護協会、日本病院団体協議会、日本病院薬剤師会、日本臨床工学技士会と医療の質・安全学会の呼びかけで始まりました。

その契機となったのは、アメリカの 100k 運動、「10 万人の患者のいのちを救え」という運動でして、亡くなられた上原鳴夫先生がこの運動に大変刺激を受け、日本でのキャンペーン活動を提案されたという経緯があります。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により、一時期、活動が停滞しましたが、平成 25 年からは、一般社団法人に移行したのを機会に、事務局体制を整え、わが国の医療安全に寄与する活動を推進してまいりました。

皆さんのお手元のパンフレットに示されていますように、医療安全全国共同行動は 8 つの行動目標を掲げてスタートしたのですが、平成 24 年には手術室の安全を、平成 27 年には、抗がん剤曝露の課題を行動目標に加え、さらに医療事故調査制度や管理職のリーダーシップについての研修会を開催し、また、これまでの成果を集大成した『医療安全実践ハンドブック』を刊行いたしました。

今年に入りましてからは、チーム医療や事例分析についてのワークショップを開催し、「WHO 手術安全ガイド」の普及、「診療所部会」の活性化に取り組むとともに、「患者・市民の医療参加」を促すべく、患者家族のための「入院日誌」を企画しています。懸案であった「医療安全レポート」の発行についても、その準備が整いつつあります。

本日は、安全・安心な医療に欠かせないインフォームド・コンセントについての特別講演を李先生にお願いしています。また、医療コミュニケーションをテーマとしたシンポジウム、課題別の分科会を予定しています。最後までご聴講、ご参加くださいますようお願いいたします。

繰り返される医療事故、医療事故調査をめぐる昨今の動きを見ましても、わが国の医療安全は、未だ、道半ばと言わざるを得ません。

「医療安全全国共同行動」も、組織として財政基盤を確立し、活発な活動を展開するには、まだまだ、多くの努力を要し、また皆さまにご協力をお願いするところがございます。

皆様方には、それぞれの職域、それぞれの団体での取り組みにとどまらず、医療安全全国共同行動にご参画いただき、私たちとともに、わが国の医療安全向上のためにご尽力いただきますようお願いして、私からの開会のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。